

(参考様式1) 議事録

令和7年度 第1回 学校運営協議会（定時制部会）議事録

校名	大阪府立大手前高等学校
准校長名	渋川 雅宏

開催日時	令和7年6月30日（月）15：00～16：00
開催場所	大阪府立大手前高等学校 会議室
出席者（委員）	平野 智之、高木 学、平田 和也、平田 圭介、堀 剛士
出席者（学校）	渋川 雅宏、石野 靖、川端 俊範、神原 優希、砂田 純平、矢野 直子、佐藤 知弘、加藤 千穂美、坂本 達也
傍聴者	なし
協議資料	令和7年度学校経営計画及び学校評価、 令和8年度使用教科書選定一覧表及び使用教科書選定理由一覧表
備考	なし

議題等(次第順)

- 1 今年度の学校の状況
- 2 令和7年度学校経営計画及び学校評価について
- 3 令和8年度使用教科書の選定について
- 4 その他

協議内容・承認事項等（意見の概要）

- 1 令和7年度学校経営計画及び学校評価について
「承認」
- 2 令和8年度使用教科書の選定について
「承認」
- 3 その他（委員の意見・質問等）
 - ・学校経営計画において、全体的に目標達成率が高いが、一方で、学校教育自己診断（教員回答）のところで35%のように低いところがあるがなぜか。
→本校は生徒指導事案の発生が少ない学校である。昨年度、何件か生徒指導事案が発生した。久しぶりに発生した生徒指導案件に対して、どのように対処したらよいのかわからない教員もあり、そのようなところが反映されたのだらうと思っている。
 - ・貴校では、生活背景が異なる生徒や日本語の習熟が異なる生徒への多様な指導（教科指導、学年経営、クラス指導）をされており、大変苦勞されていることと思う。本校（中

学校)には、過去に不登校を経験した生徒もいる。中学時代に不登校を経験した生徒が大手前高校に入学後、学校生活を続けていけるように特別に配慮していることがあれば参考にしたい。

→不登校を経験した生徒にとっては、定時制高校のカリキュラムや1日の授業(在校)時間が4時間弱と少ないところや、生徒の人数が少人数で落ち着いた静かな環境下で、圧迫感を感じることもなく、過ごしやすいのではないかと思う。また、地元の地域からはなれたところ(学校)で学ぶことで、解放感にもつながっているようである。

今後の課題は、定時制高校で過ごす時間は、1日3時間から4時間であるが、就職後は、勤務時間は1日8時間となり、その変化にどのように対応し乗り越えられるかである。離職率が高いのもそのあたりが原因の1つと考えている。4年間の高校生活の中で指導し、離職しないよう力をつけさせたいと思っている。

- ・学校経営計画(1枚目)の様々な項目で、数値がかなり上がってきた理由は、学校全体でのねらいと教員の動きがはっきりとしてきたからだと思う。
- ・コロナ禍以降、小中学校で不登校が減らない中で、府立学校がどう生徒を受け入れていくかは、大手前高校に限らずすべての学校のテーマであるように思う。
- ・他校(全日制高校)の学校運営協議会に参加した時の話であるが、理由がわからないまま転学や退学をしていく生徒がおり、それを防ぐ対策の一つとして、居場所カフェを作り、生徒の背景等をじっくり聞く場を作ってはどうかという議論があった。

大手前高校でも、定時制高校のシステムの中で中学校時代に学校に行けなかった生徒が、自分の気持ちを話し出したり、安心しだしたり、「これはもしかしたらいけるぞ」という気持ちをもたせるような居場所カフェ的な取り組みをされてはどうか、これは、他の学校にも必要な観点であると思う。

- ・外国にルーツのある生徒の日本語指導について思うことがある。大学で教員養成に携わっているが、日本語指導ができる又はその資格取得をめざしている学生あるいは教員には、教員採用選考テスト(一次)で加点する制度を設けている。大阪府内だけに限らず近畿圏でも日本語指導のニーズがあり、全体の課題だと感じている。
- ・他校(全日制高校)の学校運営協議会に参加した際、大阪府内の昼間の学校でも入学者選抜(一次募集)で定員に満たない学校があり、その学校も同様に、二次募集を行い、海外からダイレクトで受験した2人が入学したという話を聞いた。日本語指導の面で大変苦労しながらも一所懸命に対応をしているという話であったが、大手前高校では、すでに地域とつながり、小中高とつながってトータルの支援機能、センター機能の役割を果たしていることに感心した。
- ・学校行事の中での関係性づくりも1つのポイントと思う。遠足でコミュニケーションづくりが充実してきたとの報告があり、いろいろな行事の時にねらいをもってされてきたように思う。行事の中でのねらいづくりについて紹介してほしい。

→本校は、登校してから下校するまで、誰とも会話せずに過ごせる学校である。学校行事

(例えば文化祭)であれば、劇をしよう、出し物をしよう、など、他の生徒と話をしないわけにはいかない。そういうところでコミュニケーション力をつけさせたいと考えている。

入学時は場面緘黙で話せない生徒がいたが、学年が進行するにつれて、会話ができるようになった生徒も増えている。授業以外に、学校行事も大事だと考えている。

→第2学年は、HR研修(遠足)で京都方面に行った。施設の見学や視覚障がい者支援に携わっている喫茶店の店主から、生徒は紅茶を飲みながら、人権講話を聞いたり、また、気の合う生徒どうしで自由に昼食を食べたりして、絆を深めることができた。

・支援する場に行くことに意義がある。これまで支援されてきた人が支援する人の話を聞くことで、自分のことを振り返ったり役割を感じたりできる。とてもいいプログラムだと感じた。

次回の会議日程

日時	令和7年11月13日(木) 17:00~19:00(予定)
会場	大阪府立大手前高等学校 1階大会議室 及び 3・4階HR教室等